

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

|         |                  |            |           |
|---------|------------------|------------|-----------|
| 事業所番号   | 2390400238       |            |           |
| 法人名     | ケア21             |            |           |
| 事業所名    | グループホームたのしい家栄生   |            |           |
| 所在地     | 名古屋市西区名西一丁目17-22 |            |           |
| 自己評価作成日 | 令和3年2月8日         | 評価結果市町村受理日 | 令和3年5月19日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2390400238-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2390400238-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a> |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                            |
|-------|----------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント       |
| 所在地   | 愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階 |
| 訪問調査日 | 令和3年3月19日                  |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の尊厳を尊重し、利用者様の立場になって安全且つ安心して生活できる場となるように、毎日楽しく笑顔溢れるように努め寄り添えるケアを実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から少し入った町工場や住宅が点在する中に、2階建てのモダンな立て構えの事業所がある。1階は小規模多機能事業所で、2階にグループホームがある。事業所の玄関横には氏神様の小さな社があり、町内の守り神として地域の人たちが大切にお世話をしている。地域密着型の小規模多機能事業所が併設されていることもあり、地域との繋がりが強い地域となっている。例年では、地域行事に入居者と共に参加したり、毎月行われるオープンカフェで、出会う地域の方との触れ合い等で交流を深めているが、今年度は新型コロナウイルス禍により、地域行事の中止や外出規制、面会規制、また外出やボランティア訪問等もなく、ホームでの暮らしに大きな変化があった。そんな中でも入居者の立場に立って安全で安心な生活が出来るよう、「毎日楽しく笑顔あふれるような毎日」にしたいと楽しみながら食レクに力を入れたり、日々のアクティビティに笑いを取り入れるよう努めている。管理者の異動から5か月余りが経過しているが、小規模多機能事業所やグループホームの管理業務は初めてであり運営には目が行き届かないことが多くはなっているが、この仕事に誇りとやりがいを持ち、入居者や職員のために頑張りたいとの意欲を保有し、日々の業務に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目  | 取り組みの成果 |   | 項目   | 取り組みの成果    |   |
|---|---------|---|--|------------|---|
|   | 果       |   |  | ↓該当するものに○印 |   |
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)     | ○       | 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらいの<br>3. 利用者の1/3くらいの<br>4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)   | ○          | 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)           | ○       | 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)                     | ○          | 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)                 | ○       | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4) | ○          | 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くない            |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)  | ○       | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 66 職員は、活き活きと働けている(参考項目:11,12)                                      | ○          | 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)                | ○       | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                   | ○          | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)       | ○       | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                               | ○          | 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28) | ○       | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |  |            |   |

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己評価<br>外部        | 項目   | 自己評価                                     | 外部評価   |   |
|-------------------|--|--|--|---|
|                   |  | 実践状況                                     | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容   |
| <b>I 理念に基づく運営</b> |  |  |  |   |
| 1                 | (1) ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                           | 『人を大事に』という経営理念をいちばん心がけている                | 会社理念及び行動指針を事務所内に掲示し、職員はポケットサイズの小冊子にしたものを携帯している。「人を大事にし、人を育てる」という経営理念を重視している。管理者の交代により、前任者の思いを継続して日々のケアに繋げるよう心掛けている。毎月の会議や日々のケアの中で振り返りや理念の共有に努めているが、職員全体の理念に対する意識を統一することは、今後の課題となっている。  | 会社理念や行動指針は職員会議の折などに振り返りを行い、内容を理解して、職員全員が同じ方向を向いたケアをする事が望まれる。管理者と職員が一体となって、理念を共有し実践に繋げることを願いたい。  |
| 2                 | (2) ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                           | 町内清掃、お祭りなどに参加しオープンカフェの開催をして交流を深めている。     | 町内会に加入し、回覧板で地域の情報を得ている。コロナ禍により、現状では、地域の行事の多くが中止になり、運営推進会議も開催されず、オープンカフェも中止となっている。会社の方針で厳重な外出規制により、地域交流は希薄となっている。管理者の交代により5か月経過しているが、地域への挨拶回りはまだ実施していない。コロナが落ち着いた環境が整えば地域交流を再開させる意向にある。 | 地域との繋がりが強い地域とあれば、管理者として着任の重要な業務としての認識を明確に持ち、小規模多機能事業所を含め地域密着型事業所の責任者として、地域の自治会長や民生委員等、地域の関係者の方々へ挨拶回りを行い、これからも地域交流が滞ることなく運べるよう根回しをしていくことを願いたい。     |
| 3                 | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                             | 民生委員、町内会長、近隣の人々の力をお借りして交流を持てるようにしている     |  |   |
| 4                 | (3) ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている      | 2か月に一度の開催にて実績行事報告をして相談を受けながらサービス向上に努めている | 運営推進会議は、同事業所の小規模多機能とグループホーム、近隣の同系列のグループホームの3事業所合同で2か月に1回開催しているが、コロナ禍により以後、中止している。文書での開催もしていない。   | 運営推進会議が中止となった場合における取り扱いについては、名古屋より令和2年2月28日に通知され、郵送等の書面開催の指示が出されている。コロナ禍においては、情報に対して敏感に収集し、曖昧な判断によらず、行政や会社、エリアの同系列の事業所に問い合わせ、齟齬のない運営をしていくことを願いたい。 |
| 5                 | (4) ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる                 | 行政への認定書類などを提出、相談ことも電話など利用して指示を仰いでいる      | コロナ禍により役所に直接行く事は少なく、FAXやメールでの連絡や情報交換が多くなっている。状況に応じて電話で事業所の実情やサービスの取り組みを伝え、協力関係を築くよう努めている。また、認定書類や申請書類の代行業務などについては、郵送に切り替えている。  |   |
| 6                 | (5) ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | やむを得ない場合を除き拘束をしないように職員との情報共有にも努めている      | 会社のマニュアルを基に年1回法人の研修会を行っている。研修会に参加できなかった職員は、資料のDVDを利用して研修し、拘束についての視点や内容を理解して拘束が疑われる行為が無いよう確認している。職員は、日々のケアの中で身体拘束やスピーチロックをしないことを認識し、お互いに注意し合う環境を作るよう努めているが、職員の対応に差がみられる。                | 会社のマニュアルでの研修があるが、その内容を理解し活かしきれていないことが要因となり、ケアに差が生じている。再度、重要となる事項を具体的に示し話し合う機会を持ち、派遣やパート職員を含む全職員への周知や理解を図り、職員全員が、同じ質のケアができることを望みたい。                |
| 7                 | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている          | 虐待防止の研修を毎年受け、ミーティング時にも意見情報の共有に努めている      |  |   |

| 自己評価   | 項目   | 外部評価                                 |   |
|--------|--|--------------------------------------|---|
|        |  | 実践状況                                 | 次のステップに向けて期待したい内容   |
| 8      | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    | 学びながら必要な時には支援を行っている                  |   |
| 9      | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                         | ご家族に理解して頂けるように分かりやすく説明に努めている         |   |
| 10 (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                     | 面会時にはご家族にできる限りの要望を聞きいられるように話の場を設けている | 入居者からは日々の関わりの中から思いを聞き、意見や要望などは、申し送りノートに記録して職員で情報を共有し運営に反映させている。コロナ禍により家族の面会は、会社の方針により中止となっているため、現状では電話や手紙等で意見や要望を聞いているが、ホーム便りは作成していない。また、意見箱を設置して意見を述べやすい環境を整えている。  |
| 11 (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | アンケートを実施して直接対話をするように努めている。           | 職員の意見や要望は、日ごろの業務の中で管理者に直接話している。毎月のミーティング等でも意見を出し合い業務の改善や運営に役立てるよう努力をしている。また、管理者は会社が実施する職員アンケートで意見や要望を把握し、直接対話するように努めている。個人面談や人事考課を通して提案や意見、悩み、目標などを聞く機会を設けている。職員の入れ替わりが多く、派遣社員には初めての体験業務となる人もあり、新人教育には苦慮している。 |
| 12     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 従業員のスキルアップ向上に努めるように目を向けてくれている        |   |
| 13     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 年間計画を立て研修を受けられるようにしてスキルアップを目指している    |   |
| 14     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域の同業者との勉強会の場に参加できるように心がけている         |   |

| 自己評価<br>実践状況               | 外部評価<br>実践状況   | 外部評価<br>次のステップに向けて期待したい内容               | 自己評価  |    | 外部評価 |      |
|----------------------------|--|---|---|----|------|------|
|                            |  |   | 項目  | 項目 | 実践状況 | 実践状況 |
| <b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |  |   |   |    |      |      |
| 15                         | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご本人の言葉に傾聴の姿勢を見せるようにしている                 |   |    |      |      |
| 16                         | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | ご家族の抱えている不安や課題に傾聴し助言をし信頼関係を築けるように心がけている |   |    |      |      |
| 17                         | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | 状況に応じた支援、サービスを極めていけるように努めている            |   |    |      |      |
| 18                         | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | ご本人の意思を尊重し共生できるように支援努めている               |   |    |      |      |
| 19                         | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | ご本人並びにご家族に安心して頂けるようサポートを心がけている          |   |    |      |      |
| 20 (8)                     | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | 大切にしてきた事柄時間を大切に考えていく                    | 入居者の今までの生活歴や馴染みの人や場所を把握し、本人や家族からの情報も加え、思い出の場所や事柄などが継続できる支援に努めている。今年度はコロナ禍で外出や面会が規制され、例年出かけている小学校の運動会や神社のお祭りも中止となっている。そのような中でも、絵手紙や趣味の塗り絵、日常の家事仕事などを通して今まで培ってきた経験を日常に生かすよう努力をしている。 |    |      |      |
| 21                         | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                 | 孤立してしまわないようおひとりおひとりを見守らせて頂く             |   |    |      |      |

| 自己評価<br>実践状況                       | 外部評価<br>実践状況   | 外部評価<br>次のステップに向けて期待したい内容          |   |
|------------------------------------|--|------------------------------------|---|
|                                    |  |                                    | 項目  |
| 22                                 | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | 相談窓口としていつでも寄り添えるように努めていくようにする      |   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |  |                                    |   |
| 23 (9)                             | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 希望、意向に寄り添えるように努める                  | 入浴時や食事後のゆっくりした時などに話しかけを十分に行い思いや意向の把握に努めている。得た情報は介護記録に記録して、介護計画に反映させている。思いの表出の少ない方は家族から話を聞くなど協力を得たり、一方通行にならないよう配慮し本人本意に検討している。   |
| 24                                 | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 生活歴、重ねてきた時間を大切にしてい                 |   |
| 25                                 | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 現状把握に努める                           |   |
| 26 (10)                            | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | より良く生活できるよう関係者の方々と相談話し合い寄り添える支援を行う | 日々の申し送りや毎月のカンファレンスで情報の収集と課題の進捗状況を確認している。計画作成者が2~3か月ごとにモニタリングを行うと同時に介護計画の見直しと作成を行っている。全職員で目標を共有し、本人や家族の意向や希望を聞いたり必要に応じて医師や看護師の意見も取り入れて現状に即した介護計画を作成している。状態の変化に伴い、随時の見直しも行っている。 |
| 27                                 | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 介護計画、個別記録に沿って情報共有し支援に努める           |   |
| 28                                 | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 状況に反応して柔軟な支援、サービスの向上に努める           |   |

| 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況  | 外部評価<br>次のステップに向けて期待したい内容               |   |  |
|--------------|---|---|---|--|
|              |   |   | 項目  |  |
| 29           | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 地域資源の把握に努め安心安全な生活ができるように努める             |   |  |
| 30(11)       | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | 希望に沿った医療機関に受診して頂き、適切な治療を行えるように支援していく    | 入居時に事業所の医療連携の状況を説明し、今までのかかりつけ医か提携医かの希望を聞いている。現在は全員提携医に変更している。内科は月2回、歯科は、月1回以上往診があり、週1回訪問看護師により入居者の健康管理を行っている。他の専門医受診は家族の協力を得ている。受診結果は申し送り等で共有し周知してケアに活かしている。24時間体制で連携が取られ、速やかで適切な医療を受けられるよう支援している。        |  |
| 31           | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 連携に努め適切な指示の下で支援していく                     |   |  |
| 32           | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 看護サマリーの提供や面会にてなるべく早期に退院受け入れできるように支援している |   |  |
| 33(12)       | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に重度化、終末期における説明をさせて頂いている              | 入居時に、重度化した場合や終末期についての方針を明らかにし、事業所のできる事を詳しく説明して家族の同意を得ている。重度化する可能性や状況が変化した時は早めに入居者や家族、医師や看護師、職員等で話し合い、希望を再確認している。看取りの方針が決まれば、計画の見直しを行い、入居者にとって最善の援助ができるように努めている。職員は、入居時に看取りの研修をしている。                       | 会社の方針で看取りを受け入れる方向であり、看取りの経験もあるが、職員全員が共通の理解を持ち、同じレベルでケアが出来ているかは疑問が残る。職員の入れ替わりも多く、未経験の職員もいるため、看取り後の職員の振り返りカンファレンスや家族へのグリーフケアなどを含め早めに研修を重ね職員が同じレベルで看取ケアに望めるよう期待したい。 |
| 34           | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 職員全員が応急処置、初期対応できるように研修を重ねている            |   |  |
| 35(13)       | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  | 年間計画を立て防災訓練、避難訓練を行っている                  | 例年では、年2回防災計画を作成し、火災を想定した避難訓練と消火訓練を実施しているが、11月以降、管理者の交代後は実施していない。小規模事業所の管理者としての研修を終了し、消防の危機管理の責任者としての研修も受ける予定となっている。今後は入居者の安全を第一に避難誘導や、避難経路の確認などを行い、様々な災害を想定した訓練を行っていく予定にしている。備蓄品は、水と食料など3日分と簡易トイレを確保している。 | 道路が狭く住宅が密集しており、消防車が入れない地域であり、水害等も予想される地域となっている。災害時の地域との協力体制構築は以前から検討中の課題ではあったが、地域交流を推し進めると共に、早めに検討されることを望みたい。  |

| 自己<br>部外                         | 項目  | 自己評価                              | 外部評価   |                   |
|----------------------------------|---|-----------------------------------|--|-------------------|
|                                  |   | 実践状況                              | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |   |                                   |  |                   |
| 36                               | 14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                | 人格尊重、プライバシーに配慮している                | 人生の先輩として、これまでの生き方を尊重し個々の生活スタイルを守り、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。目と目を合わせ、心を込めて会話をしたり誰が聞いても不快にならない言葉かけや対応に心がけている。また、排泄で失敗した時の声掛けなどにも細心の注意を払った対応に努めている。職員には、接遇やマナーの研修を行っている。   |                   |
| 37                               | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                      | 自己決定できるように支援を心がけている               |  |                   |
| 38                               | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個々のペースを乱さぬように支援している               |  |                   |
| 39                               | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                   | らしい身だしなみ、身繕いができるように支援している         |  |                   |
| 40                               | 15) ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている  | 食事に喜びを感じられるように好物を聞きとり提供できるようにも努める | 献立や食材は業者の委託であるが、調理は事業所で毎食手作りをしている。調理のアレンジや味付けなど入居者の好みに合わせ変更することもある。コロナ禍により感染予防のため、入居者がキッチンで調理はしていないが、準備や後片付けはその人の得意分野を生かし、職員と一緒に手際よく行っている。また、月1回のお弁当の日や寿司の出前などを利用して食を楽しむための工夫をしている。月2回、併設の小規模多機能事業所で作った手作りのおはぎやフルーツポンチなども楽しみの一つになっている。 |                   |
| 41                               | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている           | 状態に合わせた食事バランスの保った提供を心がけている        |  |                   |
| 42                               | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                    | 清潔保持に気を配り支援している                   |  |                   |

| 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況  | 外部評価<br>次のステップに向けて期待したい内容      |   |
|--------------|---|--------------------------------|---|
|              |   |                                | 項目  |
| 43(16)       | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                              | 排泄記録をとり状況に応じたりズムで声掛けをしている      | 排泄記録を参考に、さりげない声掛けやタイミングを工夫してその人に合ったトイレ誘導を行っている。リハビリパンツや尿取りパッド等は個々に応じたものを使用し、自力でのトイレ排泄に向けた自立支援に取り組んでいる。夜間も尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、見守りと誘導を行っている。便秘予防では水分摂取や食べ物、運動を組み合わせ、排便記録を見ながら自然排便が出来るよう支援している。         |
| 44           | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる  | 日々の排泄記録、申し送りで確認しコントロールさせて頂いている |   |
| 45(17)       | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている                        | 個々の希望に沿って声掛け、入浴を楽しんで頂くように努めている | 入浴は週に2回を目安にしている。湯や足拭きは衛生面を考慮して毎回入れ替えたり、好みの温度で入浴できる環境を整えている。毎月1回、温泉週間と称し全国各地の入浴剤を利用して名湯巡りをして楽しみ、また、季節のゆず湯やしょうぶ湯を楽しんでいる。冬季はヒートショック防止にも留意している。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図り、気持ちよく入浴できるように支援をしている。 |
| 46           | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | 生活習慣や状況に応じて安心して眠って頂けるように努めている  |   |
| 47           | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 職員全員が服薬効能を把握して適切な支援ができるよう努めている |   |
| 48           | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | 生活歴や暮らし方を考え楽しんで気分転換できるように努めている |   |
| 49(18)       | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | その日の状況に合わせて安心して外出できるように支援している  | 例年であれば、お天気の良い日や体調にあわせて散歩や買い物に出かけられる環境にあり、四季の移ろいを感じながら外気に触れる機会を大事にしていたが、今年は、新型コロナウイルスの影響で外出や行事は自粛している。今後はコロナ禍が続いても、環境が整えば少人数のドライブや入居者それぞれの希望をくみ取り、戸外に出掛けたり、四季折々の楽しみを支援できるよう計画を立てる予定にしている。              |



| 自己部外    | 項目   | 自己評価                              | 外部評価   |                   |
|---------|--|-----------------------------------|--|-------------------|
|         |  | 実践状況                              | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | ご本人の希望に沿えるような買い物支援ができるように努めている    |  |                   |
| 51      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 時に応じ電話や手紙を利用して頂くよう支援している          |  |                   |
| 52 (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有空間は居心地よいスペースとなるよう工夫していく         | 2階のグループホーム入り口には消毒液と非接触型の体温計が備えられている。居間には、大型の加湿器や空気清浄機が整えられ、コロナの感染予防対策が徹底して行われている。居間と食堂はワンフロアで、日当たりがよく明るく風通しの良い生活空間となっている。手作り作品を壁面にさりげなく飾り、居心地の良い落ち着いた雰囲気のある居間で入居者は、ソファでくつろいだりテレビや新聞を見たり、談笑したりしてのんびり過ごしている。 |                   |
| 53      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | お一人お一人の居住空間を作れるように支援させて頂く         |  |                   |
| 54 (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 居室には使い慣れたものを配置して安心して頂けるように努める     | 部屋の入り口に自分の名前や写真入りの飾りを付けて、わかり易くしている。部屋には使い慣れた筆筒やテレビなど、自宅で使用していたものを持ち込み安心できるスペースや環境づくりをしている。また、愛着のある手作り作品や写真などを飾って自分らしく落ち着いて過ごせる工夫をしている。換気扇により常時換気をしている。   |                   |
| 55      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 危険なものの障害を妨げて安心安全な空間を作っていけるように心がける |  |                   |